

親子で体験—救急や健康 の意識を高めるフェア

救急医療週間、健康づくり強調月間、防災月間に合わせて、北はりま消防組合西脇消防署と市が「救急フェア」を開催し、体験を通じて楽しく学べる機会を提供しました。

会場では、子どもたちが消防服を着て写真撮影を楽しんだほか、普段は見られない救急車の車内を見学。「カッコいい」「将来は消防士になりたい」と目を輝かせました。

健康チェックができるブースでは、血圧や握力を測定。自身の健康状態を知るきっかけになり、日頃の健康管理の大切さを学びました。心肺蘇生ブースでは、胸を押す深さや速さ、リズムをアプリで学んだ後、心臓マッサージの1分間の実技に挑戦しました。「難しかったが、もしものときに役立てたい」との声が聞かれました。〔9月13日／みらいえ〕



秋こいフェスで交流

津万地区自治協議会が北はりま田園空間博物館の芝生広場で「秋こいフェスティバル」を開催。家族連れなど多くの人が屋台の味やバンド演奏を楽しみ、やぐらを囲んで盆踊りの輪が広がりました。〔9月5日〕



8月31日は「野菜の日」

農産物直売所北はりま旬菜館で「野菜の日」に合わせたイベントを開催。秋ナスやブドウ、友好都市・北海道富良野市のスイートコーンなど旬の農産物が並び、来客は季節の味を買い求めました。〔8月29日、30日〕



いつまでもお元気で

敬老の日を前に、片山市長らが市内最高齢の臼井てる子さんを訪ね、長寿を祝福。108歳の臼井さんは「ここまで元気に生きてこられて幸せ。感謝の気持ちを忘れずに生きていきたい」と喜びを語りました。〔9月1日〕



雨にも負けない熱気—西脇夏まつりに1.4万人

第5回日本のへそ西脇夏まつりに市内外から約1万4千人が来場。過去最多となる約110店の露店が並び、会場は大いににぎわいました。

ステージでは、双葉小学校の児童が鳴子を手に「よっちょれ」を披露。雨で一時中断する場面もありましたが、最後まで全力で踊り切りました。比延小学校の児童による鼓笛隊演奏は雨のため中止となりました。また、多可町出身の5人組ロックバンド「BRINK SLIDE」は、オリジナル曲を熱唱し、会場を盛り上げました。ゲストライブは昨年に続き「ガガガSP」が登場。魂のこもった歌声と大迫力のステージに歓声上がり、会場の熱気は最高潮に達しました。

フィナーレには、3千発の花火が夜空を彩り、華やかに締めくくられました。〔8月29日／日本へそ公園〕



心を一つに成果を舞台で披露

第54回西脇市子ども芸術祭「子どもステージ」が開催されました。音楽や踊りなどに励んでいる市内8つの団体・グループが出演し、息の合った演奏や華やかな踊りを披露。子どもたちの真剣な表情と力いっぱいのパフォーマンスに、会場からは拍手と歓声が送られました。〔8月23日／市民交流施設〕



「オール西脇」で決意新たに

滝野社インターから氷上インターに至る東播丹波連絡道路の早期事業化を目指し、「国道175号西脇市バイパス整備促進協議会」が設立。これまでの各地区の協議会活動を引き継ぎ、市内8地区の区長会や自治協議会、商工会議所などがメンバーとなり、「オール西脇」で西脇北バイパス以北の事業化を進めます。〔8月20日／市役所〕